

重要な点検ポイント

タイヤはゴム製品ですので、使用していくうちに擦り減っていきます。(摩耗)
また、駐車時や保管時も徐々に劣化していくものです。
「走る」「止まる」など大事なタイヤの性能に大きく関わりますので、定期的に点検を行なってください。

1 スリップサイン、摩耗(擦り減り)、偏摩耗(部分的な擦り減り)

■ 摩耗とスリップサイン
乗用車用タイヤでは、摩耗が進み溝の残りの深さが残り1.6mmになるとスリップサインが現れます。スリップサインの現れたタイヤは法規上も違反となる上、スリップしやすく大変危険です。速やかにタイヤの交換をしましょう。
※スリップサインは、タイヤの側面にある「△」マークの延長線上の溝でご確認ください。



■ 偏摩耗
タイヤは車種や装着位置により、タイヤの右側、左側、センター部分など、摩耗の度合いが均一になるようタイヤのローテーション(位置交換)をお奨めいたします。
ローテーションについてはタイヤ専門店へお問い合わせ下さい。



2 外観の傷み(カット、クラック等)

タイヤ性能の維持のためにもタイヤのキズのチェックをしましょう。
コードに達している外傷やゴム割れのあるタイヤは非常に危険なため、使用しないでください。
細かなキズなどもよく点検し、気になる点がありましたらタイヤ専門店にご相談ください。

■ カット、クラック
タイヤの溝やサイドに入る「キズ(カット)」や「ヒビ(クラック)」は、日々のご使用での自然劣化や、壁や障害物にぶつけたり擦ったりすると起こるもので。キズの深さや痛みの度合いによっては、タイヤ交換が必要となります。タイヤ専門店に交換の目安をご相談下さい。

■ ピンチカット
タイヤの側面に盛り上がったような変形ができるもので、タイヤ内部のコードが切れている状態です。
そのまでの走行は大変危険ですので、タイヤの交換を行って下さい。

■ デント
これはタイヤの内部構造に起因するもので、安全上問題ありません。
詳しくはタイヤ専門店にお尋ねください。



3 空気圧

タイヤの空気圧は、自然と低下してしまいます。月に一度は充填を行い、指定空気圧を維持しましょう。測定はタイヤが冷えている状態で、「エアゲージ」を使用して正確に行って下さい。低偏平タイヤは見た目で空気圧不足が分かりづらいので注意しましょう。
空気圧不足・過多は、様々なトラブルの原因となりますのでお気をつけ下さい。



4 ホイールの変形やタイヤの変形

ホイールやタイヤが変形していないかも、大切な確認ポイントです。
変形した状態で使用していると、上手に性能を発揮できないばかりか、大事故に繋がる恐れがあります。
少しでも気になることがありましたら、お近くのタイヤ専門店にご相談下さい。

安全点検手順

以下の安全点検手順のポイントに沿って、タイヤの状態をチェックしましょう。
定期的に点検を行うことで、安全なドライブができるようになります。

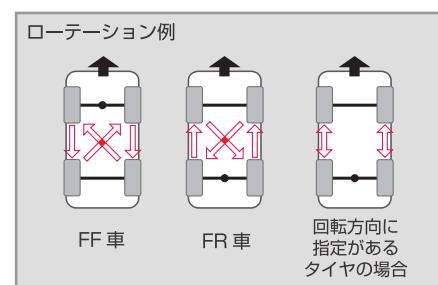
タイヤのココをチェック!!

- ① **摩耗とスリップサイン**
溝がすり減ってスリップサインが現れていませんか?
- ② **摩耗、偏摩耗**
すり減り具合は、偏っていますか?
- ③ **タイヤ、ホイールの変形や歪み**
タイヤやホイールに歪みはありませんか?
- ④ **外観のキズ、ヒビ**
タイヤにキズやヒビ、その他気になる点はありませんか?
- ⑤ **空気圧**
(エアゲージを使いましょう)
指定空気圧に調整されていますか?

項目	日付							
前輪 [左]	スリップサインの露出	有・無						
	偏摩耗の有無	有・無						
	タイヤ、ホイールの変形	有・無						
	外観のキズ、ヒビ	有・無						
	空気圧	有・無						
前輪 [右]	スリップサインの露出	有・無						
	偏摩耗の有無	有・無						
	タイヤ、ホイールの変形	有・無						
	外観のキズ、ヒビ	有・無						
	空気圧	有・無						
後輪 [左]	スリップサインの露出	有・無						
	偏摩耗の有無	有・無						
	タイヤ、ホイールの変形	有・無						
	外観のキズ、ヒビ	有・無						
	空気圧	有・無						
後輪 [右]	スリップサインの露出	有・無						
	偏摩耗の有無	有・無						
	タイヤ、ホイールの変形	有・無						
	外観のキズ、ヒビ	有・無						
	空気圧	有・無						

点検結果はいかがでしたか?

- ・タイヤの溝がすり減っている(スリップサインが出ている)場合はタイヤの交換をして下さい。
- ・片側の擦り減りが見られたらローテーションをしましょう。
駆動方式により異なりますので右図を参考に行なってください。
- ・カット、ヒビなど劣化が著しい場合、または気になるキズなどがありましたら、タイヤ専門店にご相談下さい。
- ・空気圧はエアゲージを使って正しく測定・調整しましょう。
お持ちでない場合は、1ヶ月に1度、タイヤ専門店にて、空気の充填をしてもらいましょう。



ダンロップは皆様の安全を徹底支援しています。タイヤについてはダンロップファルケンショッフループにお気軽にご相談下さい。